



「戦後最も厳しい安全保障環境！
益々高まる東京都防衛協会の重要性」

東京都防衛協会 会長 大宮英明



明けましておめでとう
ございます。昨年4月に
歴史と伝統の有る東京都
防衛協会の会長を拝命し
ました大宮英明です。会
員の皆様におかれまして
は、ご家族の皆様とお健
やかに新年を迎えられて
いる事と衷心よりお慶び
申し上げます。また旧年
中は、東京都防衛協会へ

の深いご理解とご支援・
ご協力を賜り、厚く御礼
申し上げます。
さて昨年度内では、約
3年間に渡り蔓延した新
型コロナウィルス感染症
が一応の収束を迎えまし
たが、一方で急激な円安
や燃料・原材料等の高騰
に伴う物価上昇により、
非常に苦勞の絶えない一
年となりました。
世界に目を向けますと、
ロシアがウクライナに侵
攻して2年が経過しよう
としています。この侵攻
は、国際法の縛りの中で
も「脅威」が常に存在す
ることを示すものであり
ますが、現在も激しい戦
闘が続く、未だ収束の目
途が立っておりません。
一日も早くウクライナに
平和が訪れ、新たな安全
保障の枠組みが構築され
ることを祈念しています。
一方で、我が国の置か
れているインド太平洋地
域は、中国による軍事力
の質と量の急速な強化と
東シナ海・南シナ海にお
ける力による一方的な現
状変更の試みが継続・強
化されている事に加え、
北朝鮮によるミサイルの
繰り返し発射と核・ミサ

イル開発の加速により、
安全保障環境的に最も危
険な地域であるといつも
も過言では有りません。
斯かる状況において、
我が国の主権と独立の維
持、領域の保全、国民の
生命・身体・財産の安全
を確保し、自由と民主主
義を基調とする我が国の
平和と安全を維持するた
め、自衛隊の皆様は、周
辺海域の警戒監視や海
外任務等により、あらゆ
る脅威に対する安全・安
心の確保に努めています。
加えて自衛隊の皆様は、
大規模自然災害等への即
応、国家行事への協力支
援等、多くの任務を遂行
しています。そのため、
自衛隊を支援する我々防
衛協会の活動も、益々そ
の意義・重要性が高まっ
ている状況にあります。
東京都防衛協会として
は、各地区協会との
連携を更に深めると共に、
特別会員の皆様とも力を
合わせ、「国民の防衛意
識の普及と高揚を図ると共
に、自衛隊を激励支援し
てその充実に寄与する」
もって我が国の平和と繁
栄に寄与する」という本
会の目的達成のため、会
勢の拡大及び各種事業の
推進を計っていく所存で
ありますので、本年も引
き続き皆様のご支援・ご
協力を賜りますようお願い
申し上げます。
最後に、各地区協会の
益々の発展と、会員各
位のご健康・ご多幸を祈
念して新年の挨拶とさせ
て頂きます。



新年あけましておめで
とございます。東京都
防衛協会の皆様におかれ
ましては、ご家族も含め
お健やかに新年をお迎え
のこととお慶び申し上げ
ます。旧年中は、東京地
本に對しまして格別のご
支援、ご協力を賜り厚く
御礼申し上げます。
現在の我が国を取り巻
く安全保障環境は、戦後
最も複雑な状況に直面し
ています。令和5年は令
和4年12月に閣議決定さ

が条件の一つであり、出
来なければ張子の虎とな
る可能性があります。
このような状況下、東
京地本は人口が集中する
東京都において最大限の
募集力を発揮し、今の防
衛省・自衛隊の人的基盤
の整備に努めなければな
りません。現行制度下で、
東京都の特性を踏まえ、
人口減少社会を見据えた
各種の募集施策を提言す
る役割もあると認識して
います。
このため、人的基盤の
更なる充実に向け、まず
は部内、そして皆様との
「絆」を強固にし、「One
Team」となっ
て着実に業務を推進する
とともに、「時代の責任」

「募集力は抑止力という
意識をもつて」

東京都防衛協会
前本部長 山下博二 陸将補

を果たすため、人的基盤
の整備に係る意見をしつ
かりと提供して、特に
「募集力は抑止力」とい
う意識を持ちながら、
「本気」で業務に取り組
んでいます。
東京地本は、職務に對す
る誇りをもって諸先輩方
が築いてこられた67年の
歴史をしつかりと継承し、
情熱と執念をもって募集、
援護、予備自衛官等の各
種目標を達成するととも
に、「全国筆頭地本」の
地位を深く心に刻み、専
心職務に邁進する所存で
す。
結びに、皆様の本年の
ご多幸とご健康を記念し
ますとともに、変わらぬ
ご支援ご協力を賜ります
ようお願い申し上げます。
年のご挨拶とさせていただきます。

東京都防衛協会委員・
ご家族の皆様、新年あけ
ましておめでとうござい
ます。
さて「世界価値観調査」
を「存じでしょうか？昨
年春頃、ネットニュース
などで話題を集めました
が、「もし戦争が起これ
ば、どの国に戦うか？」
という問いに對して、
「はい」と答えた日本人
は13・2%は世界79か国
中ダントツの最下位でし
た。日本は「はい」が一
番少ないだけではなく
「わからない」が38・1
%と世界で最も大きい値
を示しています。
ロシアによるウクライ
ナ侵襲から約2年、終戦
や停戦の見通しは未だに
立っていません。ウクラ
イナの「はい」は56・9
%。56・9%の国民が戦
う意思を示した状況でロ
シアの侵襲を受けたわけ
ですが、ウクライナ国民



の大半が国内にとどまり
戦っています。侵襲が始
まって以来約790万人
のウクライナ国民が国外
に避難しましたが202
2年中にその半数が国内
に戻り、現在の国外避難
者は約400万人。全国
民の9割が国内に留まっ
ていることになりました。
軍人として実際に戦っ
ているのが数10万、100
の大半が国内にとどまり
戦っています。侵襲が始
まって以来約790万人
のウクライナ国民が国外
に避難しましたが202
2年中にその半数が国内
に戻り、現在の国外避難
者は約400万人。全国
民の9割が国内に留まっ
ていることになりました。
軍人として実際に戦っ
ているのが数10万、100

阻止し反撃に討って出
てくるのです。軍人はど
この国でも国民の10%も
いません。「戦う」とい
う意味が「銃を持って戦
う」ことではあられなく
うでも十分なのです。日
本以外の国は「戦う」と
は「自分のできる事で国
に貢献する」ということ
に近いです。自分が軍
人になって戦うこととは
いって分かっていて人た
ちも「自分のできる事で
国のために貢献する」と
いう意味で「はい」と答
えているのです。
第1師団は4400万人
の国民がいます。「自
分の国のために戦います
か」と問われて「わから
ない」と答えたのが38
・1%です。これは「わか
らない」と答えるであら
う国民が1700万人担
当地域内に住んでいる事
になります。学校等では
我が国防衛等に関する授
業を受けることもないし
うし自衛官と接する機会
も少なかった方々ではな
いかと察します。この1
700万人の方々に「戦
う」とは自分のできる事

「戦う？」13・2%
第1師団 師団長 兒玉恭幸 陸将
万人程度でしょうから、
その他の約3500万人
が農林水産業を含むライ
フラインを要する、産業・
経済を動かす国家財政を
支えて、ゼレンスキー政
権の政治外交を後押しし
ているといえます。
昨年9月26日の日経新
聞の記事によると、8月
7日にウクライナの首都
キーウを訪問した財務省
の神田真人財務官の一行
が見たのは、空襲警報が
断続的に鳴り響き爆撃の
跡が見られ戦時の緊迫感
は消えないものの、スー

た同行筋は述べていま
す。
「戦う」とは銃を持つ
て戦闘するだけではありません。
「はい」と答えた
た56・9%のウクライナ
国民だけでなく9割の
人々が国内に留まりまし
た。そして、自分の仕事
を侵襲前と変わらずしつ
かりとやっています。こ
れによって生活のための
ライフラインは維持され、
経済が回り、国家財政は
維持されて外交交渉を行
い、軍隊は戦闘が可能と
なっておりロシア軍の侵襲を

れた「国家安全保障戦略・
国家防衛戦略・防衛力整
備計画の安保3文書」に
より示された、防衛力の
抜本的強化の為の施策が
実行初年度に当たるとい
う大きな特性のある年
でした。
一方で、人口減少社会
が進行する構造的な問題
に加え、有効求人倍率の
増加、少子化による強い
地元志向、厳しい安全保
障環境による入隊への忌
避感など、募集、予備自
業務は極めて厳しい環境
下にあるとともに、援護
業務においても、より退
職隊員のニーズに合致し
た求人の確保は十分では
ない状況です。
「安保3文書」に示さ
れた防衛力の抜本的強化
のための施策が他国に對
して十分な抑止力となる
為には、人的基盤の整備

謹賀新年

東京都防衛協会

会長 大宮英明

副会長 浅野敏雄

副会長 大石吉彦

副会長 根本勝則

副会長 金澤博範

副会長 山田忠昭

副会長 川元賢一

副会長 武内誠一

副会長 中野義弘

副会長 山口幸男

副会長 青木 豊

副会長 瀬尾正弘

副会長 石田 健

副会長 石川 清

副会長 青木 修

副会長 小俣雅宏

副会長 佐伯 寛

副会長 永田政弘

副会長 栗山欽行

副会長 田邊治邦

副会長 鈴木征雄

副会長 近藤彰敏

副会長 大家重基

副会長 川元賢一

副会長 石川 進

副会長 柿崎裕治

副会長 吉村辰明

副会長 山田忠昭

副会長 上野博巳

副会長 森上秀男

副会長 濱中俊男

副会長 大澤 進

副会長 古賀新一郎

副会長 内 直樹

副会長 梅田幸幸

副会長 島崎 明

副会長 清水久巳

副会長 猿渡昌盛

副会長 田村利光

副会長 高水永雄

副会長 金井富雄

副会長 島崎義司

副会長 高山晃一

副会長 小野瀬康裕

第1師団

令和5年度第2次師団演習
首都防衛のミッシェンリハーサル

師団は10月12日から18日までの間、東・北富士演習場及び各所駐屯地において第2次師団演習を実施した。

本訓練における主要演習項目は「ゲリラ・コマンドウ等への対処能力向上に係る訓練」「本格的陸上作戦を含む任務に応ずる部隊訓練」の2項目で実施し、各部隊の計画により各種事態対処能力の練度向上を図った。

私たちの誇り 運動する自衛隊!

ゲリラ・コマンドウ等への対処に係る部隊訓練では、本格的陸上作戦に係る部隊訓練では、各部隊の任務、特性に応じた訓練を実施し、その練度向上を図った。



建物内に潜伏する敵の撃滅等の訓練を実施する隊員

関東大震災から100年 災害の教訓活かす

師団は8月27日及び9月3日までの間において、各所で行われた九都県市合同防災訓練に参加し、関係機関等との連携強化及び地域住民の防災意識の向上を図った。



消防及びDMA Tと連携して救助された被災者の処置を行う1後支連の隊員達

東京地本

東京大学法学部主催の官庁等講演会で幹部自衛官の魅力を「好演」



「幹部自衛官の仕事」と題して「好演」する募集課

自衛隊東京地方協力本部（本部長 山下陸将補）は10月26日、東京大学法学部（緑会）が主催する「官庁等講演会」において、東京地方協力本部募集課長（樋口一陸佐）による講演を実施した。

2部は海上自衛隊東京音楽隊による演奏。第3部では合同演奏が行われた。「ふささこ」が演奏されると、隊員と吹奏楽部員が合唱し、会場は大いに盛り上がった。



コラボ演奏した海自東京音楽隊と駒沢大学高校吹奏楽部

東京音楽隊と高校生がコラボ
自衛隊東京地方協力本部世田谷募集課内所（所長 巻口三陸佐）は9月18日、駒沢大学記念講堂で開催された、海上自衛隊東京音楽隊（隊長 植田啓生一海佐）と駒沢大学高校吹奏楽部のスペシャルジョイントコンサートにおいて広報を実施した。

活動最前線!

地区防衛協会コーナー

れた元陸将の番匠幸一郎先生をお招きし「現下の国際紛争から見た我が国の国防について」と題した、ウクライナ情勢はもとより先生の様々なご経験を交えた世界で、またアジアで我が国が置かれている状況等、多岐に亘るお話を伺いました。



総会でお話を頂いた元西部方面総監の番匠幸一郎先生

令和5年度第2次師団演習
首都防衛のミッシェンリハーサル
師団は10月12日から18日までの間、東・北富士演習場及び各所駐屯地において第2次師団演習を実施した。

あきる野市 五日市



あきる野市の地域活動産業祭に参加する会員

そこにある危機を強く認識し更なる防衛意識の向上を図る事が出来た。事務局 宮原孝夫

瑞穂町

瑞穂町防衛協会は、昭和52年に発足し、本年で47年の歳月を数えます。現在は、高水 永雄会長を筆頭に会員164名で構成されています。



4年振りとなる対面での総会で挨拶する高水永雄会長

また、国防を再認識する中で、今年こそは世界情勢が変化へとエスカレートすることなく、安寧へと向かう分岐点となることを願います。事務局 杉田潤一郎

東京都防衛協会からのお知らせ

東京都防衛協会の令和6年の1月から4月迄の会報発行予定及び主な行事・イベントについてご連絡致します。

相続・事業承継 対策と税務申告

税理士・事業承継士 秋田 耕治郎

「命の綱」を繋ぐお手伝い
相続も事業承継も早めの準備が重要です。私たちは、皆様の大切な想いと財産を未来へと繋ぐお手伝いをさせていただいています。真心と感謝と祈りを込めて。

秋田會計事務所 | 相続支援センター
〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-16 三弘ビル3F
TEL 03-3263-3458 FAX 03-3263-3459
E-mail: akita@tkcnf.or.jp URL: http://www.akita-kaikei.jp

明治記念館
婚礼・宴会のご用命をお待ち申し上げます
法人営業部 担当 武本 茂 (陸OB 防大27期)
TEL: 03-3746-7711 Mobile: 080-2384-9560
E-mail: s.takemoto@meijikinenkan.gr.jp

隊員及び家族の皆様の
遺言アドバイザー
柴田 純一 行政書士 (遺言・相続専門)
遺言書がなく揉める相続。揉めたら全員が敗者です。勝者は一人もいません。あなたの遺言書があなたの家族を守ります。「遺言書」づくりをサポート致します。
遺言書は、あなたと家族の絆の証明書!!
秘密厳守
行政書士 柴田法務会計事務所
〒173-0035 東京都板橋区大谷口2-24-13 受付時間: 10:00~18:00
TEL 03-6780-1408 FAX 03-6780-1409
E-mail: info@yuigonsyo.biz http://www.yuigonsyo.biz/

協賛広告有難うございます!